

## 令和3年度業務実績に関する評定及び委員意見一覧

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
第1 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	4	22	1	0	27	96.3%	14.8%	

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 入学者受入方針・入学者選抜に関する目標を達成するための措置

1

イ 学士課程 No.1~4	1	3			4	100.0%	25.0%	A	【評価】 A	A 6
---------------	---	---	--	--	---	--------	-------	---	-----------	-----

## 【委員意見】

○伊勢委員 A

出願者増は評価できる。

○伊藤委員 A

- ・食産業学群において大きな伸びがあったことは評価できる。
- ・第一志望とする入学者数が目標達成したことは評価できる。

○佐藤委員 A

大学見学・出前講義や探求型学習の指導支援、アカデミック・インターンシップなどの事業を通じて、県内高等学校等とのネットワーク構築のさらなる推進を期待する。

○中沢委員 A

令和4年度よりDP、CPを改定するとともに新カリキュラムを稼働させている。大学見学、出前講義、探究型学習支援やアカデミック・インターンシップなどを通じて県内高等学校等とのネットワークを構築した。また、オンラインオープンキャンパスで学類改編や新たな教育課程について公開した結果、令和4年度出願者は平成29年度入学者選抜以降2番目に高い水準に回復し、第一志望入学者も全体の67.9%で目標値66%をクリアした。さらに、令和4年度から学類改編を行った食産業学群生物生産学類における令和4年度出願者数が対昨年度の1.3倍に増加した。

○中島委員 A

高大連携を進めるとともに、大学の学類改変などを説明した。

○吉沢委員 A

ある程度の高い水準で、学生の受け入れ、選抜が行われていることがわかる。特に生物生産学類の入学希望者が上がったことが入学希望者目線からの取り組みであったことは評価できる。

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	---	---	---	---	--------	------	-----

2

□ 大学院課程 No.5~6		1	1		2	50.0%	0.0%	C
----------------	--	---	---	--	---	-------	------	---

【評価】  
C C 6

**【委員意見】**

- 伊勢委員 C
- 伊藤委員 C
- 佐藤委員 C
- 中沢委員 C

アドミッションセンターと各研究科が連携して試験実施要領を作成し入試運営を進めている。看護学研究科では、研究科FDで「ストレート進学する大学院生の教育充実」について議論を行い、事業構想学研究科では令和4年度入試科目の変更を行った。また、食産業学研究科では、学内推薦入試制度の出願要件と認定基準を見直し、食産業フォーラムを通じた広報・周知も行った。しかし、大学院定員の充足率は73.1%に留まっている。

- 中島委員 C

全国的な傾向ではあるが、大学院定員が充足できていない。

- 吉沢委員 C

内部進学者を増やすためのFDを行ったことは評価できる。そこで、進学希望学生のニーズはどこにあるのかなど分析が必要である。

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	---	---	---	---	--------	------	-----

(2) 教育の内容等に関する目標を達成するための措置

3

イ 学士課程 No.7~9	2	1			3	100.0%	66.7%	S
---------------	---	---	--	--	---	--------	-------	---

【評価】
S

S 6

## 【委員意見】

○伊勢委員 S

地域連携実践教育やグローバルなど、特色あるプログラムを構築されていることが評価できる。

○伊藤委員 S

- ・ 事業構想のイノベーションデザインとしての「南部鉄器」の体験は評価できる。
- ・ 食産業学群の基盤教育との連携強化は評価できる。

○佐藤委員 S

○中沢委員 S

令和4年度からの教育課程改編に向けて全学DP, CPを整備し, さらに連動して学群DP, CPの見直しも行った。また, 新しいCPに対応して, フレッシュマンコア科目の中の数理・データサイエンス・AI科目の充実を図り, さらに「コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習」, アントレプレナー科目, 国内外のインターンシップ科目(「宮城大学・JICA連携グローバル・プログラム」を含む)を配置し, さらに「南部鉄器」の製造方法をVRで体験する教育プログラムを試行した。また, これまでの地域連携型実践教育科目履修者(アソシエイト取得者)総数及び自己評価点は指標を上回っている。

○中島委員 S

生物生産学類の改変など, 教育課程の見直しと再編成を積極的に行い, 入学希望者の増加につなげた。地域連携型実践教育が成果を上げている。

○吉沢委員 S

各学群とも優れた取組みをしている。

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	---	---	---	---	--------	------	-----

4

□ 大学院課程 No.10~12		3			3	100.0%	0.0%	A
------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---

【評価】
A 5 B 1

**【委員意見】**

- 伊勢委員 A
- 伊藤委員 A  
食産業研究科における実験機器は老朽化しているので、更新されることを期待する。
- 佐藤委員 A
- 中沢委員 A  
数値化しにくい項目が多いが、学位論文審査基準を点検し、学修成果測定ツールを作成し、「宮城大学教学アセスメントプラン」を策定するなど、達成されているものが多い。
- 中島委員 A
- 吉沢委員 B  
看護学研究科において、専門看護師課程をさらに開設する準備は高度な実学教育という方針にも思える。一方で、ストレート大学院生を増やすということに関し、研究科の理念、目標がどのように反映されるのか再考する必要がある。他の2研究科においてもどのような人材養成なのか明確にする必要があるのではないかと考える。

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	---	---	---	---	--------	------	-----

(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

5

イ 教育研究組織 No.13		1			1	100.0%	0.0%	A	【評価】 A A 6
----------------	--	---	--	--	---	--------	------	---	---------------

**【委員意見】**  
 ○伊勢委員 A  
 ○伊藤委員 A  
 「研究推進・地域未来共創センター」(愛称公募期待)の、より一層の地域貢献を期待する。  
 ○佐藤委員 A  
 ○中沢委員 A  
 研究と地域連携の分野を統合させた新たな体制として「研究推進・地域未来共創センター」を設置している。  
 ○中島委員 A  
 ○吉沢委員 A  
 順当に体制整備が進んでいる。

6

ロ 教員・教員組織 No.14~16		3			3	100.0%	0.0%	A	【評価】 A A 6
--------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---	---------------

**【委員意見】**  
 ○伊勢委員 A  
 ○伊藤委員 A  
 ○佐藤委員 A  
 ○中沢委員 A  
 新しい教員評価制度を令和2年度から実施し、令和3年度は合計7回にわたる教員評価制度検討委員会を開催して、基礎評価項目の点検及び評点の見直し等について積極的に改善を図っている点は評価できる。  
 ○中島委員 A  
 ○吉沢委員 A  
 今の方法においても十分であるが、実務家教員なのか研究センター教員なのかなど、評価のあり方を大学のとりたい教員と合わせて考える必要があるのではないかと考える。

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	---	---	---	---	--------	------	-----

(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

7

イ 学修・生活支援 No.17~19	1	2			3	100.0%	33.3%	A
--------------------	---	---	--	--	---	--------	-------	---

【評価】	A 6
------	-----

**【委員意見】**  
 ○伊勢委員 A  
 ○伊藤委員 A  
 コロナ対策として、看護学群の「こびっと隊」での対応は評価できる。  
 ○佐藤委員 A  
 ○中沢委員 A  
 コロナウイルス感染拡大防止対策として、職員による見回り、チャットボットによる出席停止手続きの説明、学生への各種個別支援や面談、動画による感染予防教育、看護学群ならではの「こびっと隊」による感染防止活動など、手厚い対応がなされている。  
 ○中島委員 A  
 ○吉沢委員 A  
 学修支援は行き届いており評価できる。多様な学生、職員に対する支援を検討する委員会などを立ち上げる段階に来ているのではないかと考える。

8

ロ キャリア形成支援 No.20~21		2			2	100.0%	0.0%	A
---------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---

【評価】	A 6
------	-----

**【委員意見】**  
 ○伊勢委員 A  
 ○伊藤委員 A  
 ・宮城県中小企業家同友会をはじめ、地域の企業組織がたくさんあるので、できるだけ対応をお願いしたい。  
 ・県内就職率は、食産業学群も50%達成できるように期待する。  
 ○佐藤委員 A  
 ○中沢委員 A  
 大学独自のインターンシップ教科書を用意したり、夏休み・5日間のフルオンライン型インターンシップを企業と合同で設計・実施するなど、産学連携インターンシップに力を入れていることがよく分かる。  
 ○中島委員 A  
 インターンシップ制度を有効活用している。100%ではないが、高い就職率を維持している。  
 ○吉沢委員 A

**【特記事項に関する委員意見】**  
 ○吉沢委員  
 学生の教育に関する部分は、非常に丹念に実施されており評価できる。

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	---	---	---	---	--------	------	-----

9

2 研究に関する目標を達成するための措置 No.22～24		3			3	100.0%	0.0%	A	【評価】 A A 6
-------------------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---	---------------

**【委員意見】**

- 伊勢委員 A
- 伊藤委員 A
  - ・ 社会に研究成果を発表する機会が増えたことは評価できる。
  - ・ また、教員の成果発表が倍になったことは特に評価する。
- 佐藤委員 A
- 中沢委員 A
  - 学外者向けに学内研究シーズを発表するとともに学内教員間でも連携・交流する機会として「研究・共創フォーラム」を開催している点は評価できる。また、「ビジネスマッチ東北2022春」のマッチングイベントにも出展し、学内シーズの情報発信を行っている。
- 中島委員 A
  - 「研究推進・地域未来共創センター」を設置し、研究成果を地域に向けて発信している。
- 吉沢委員 A
  - 研究推進のための積極的な取組みが行われている。

**【特記事項に関する委員意見】**



# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	---	---	---	---	--------	------	-----

10

3 教育研究環境の整備に関する目標を達成するための措置 No.25～27

	3			3	100.0%	0.0%	A
--	---	--	--	---	--------	------	---

【評価】  
A A 6

**【委員意見】**

- 伊勢委員 A
- 伊藤委員 A
- 佐藤委員 A
- 中沢委員 A  
動画が一般的な昨今に、図書館活用促進を目的として音声のみのポッドキャスト番組を試行した狙いとそれに対する反応が知りたい。
- 中島委員 A  
大規模修繕工事を実施した。
- 吉沢委員 A  
積極的な取組みは評価できる。

**【特記事項に関する委員意見】**

- 吉沢委員  
3研究科の合同で取り組む学際的研究があってもいいと思う。これが、産学連携・地域貢献促進研究となるといいのではないかと思います。

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	---	---	---	---	--------	------	-----

第2 地域貢献等に関する目標を達成するためとるべき措置	0	5	1	0	6	83.3%	0.0%	
-----------------------------	---	---	---	---	---	-------	------	--

11

1 地域貢献に関する目標を達成するための措置 No.28~31		4			4	100.0%	0.0%	A
---------------------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---

【評価】	S 1
A	A 5

**【委員意見】**

- 伊勢委員 A  
看護学群のコロナ関連の支援は評価したい。ご苦労様でした。
- 伊藤委員 A  
コロナ禍におけるオンライン講座の開催がなされ、参加者数指標を上回っており、評価できる。
- 佐藤委員 A  
コロナ禍でも公開講座をオンラインで実施し、指標としている公開講座への参加者数、市町村等への各種委員・講師の派遣件数、連携事業・受託事業数等は問題無くクリアしている。また、仙台BOUSAI-TECH等と連携し、レジリエンス及びアントレプレナーに関する教育プログラム研究を進展させている。
- 中沢委員 A  
自治体や企業との連携が多い。
- 吉沢委員 S  
特にコロナ禍での社会貢献が非常に良く行われていたと思う。

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	---	---	---	---	--------	------	-----

12

2 国際交流等に関する目標を達成するための措置 No.32~33		1	1		2	50.0%	0.0%	C
----------------------------------	--	---	---	--	---	-------	------	---

【評価】	B 2
C	C 4

**【委員意見】**

○伊勢委員 B  
ひとつひとつの計画の遅れが特に認められるものではないと感じる。

○伊藤委員 C  
コロナが収束したのちに期待する。

○佐藤委員 C

○中沢委員 C  
判定はCであるが、海外派遣学生が指標に達しないだけで、その他の年度計画(業務実績報告書P49)は進んでいる。日本学生支援機構(JASSO)の海外留学支援制度(協定派遣)に申請するとともに、事業構想学群がJICA東北と連携覚書を締結し「宮城大学・JICA連携グローバル・プログラム」によってグローバル人材の育成を進めている点は評価できる。

○中島委員 C  
「グローバル人材育成プログラム」「多文化共生トーク」などを実施。国際化に関するJICAとの協力も独自の試みとして評価できる。一方で感染症の拡大もあり、海外との往来は少ない。

○吉沢委員 B  
この状況下の中で、できる範囲の様々な努力をされていることが伺えた。

**【特記事項に関する委員意見】**

○吉沢委員  
国内における社会貢献が素晴らしかった反面、国際交流等の大学の努力が発揮できない状況が伺える。

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	---	---	---	---	--------	------	-----

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	0	5	0	0	5	100.0%	0.0%	
------------------------------------	---	---	---	---	---	--------	------	--

13	1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置 No.34~35		2			2	100.0%	0.0%	A	【評価】	A 6
										A	

【委員意見】

- 伊勢委員 A
- 伊藤委員 A  
新理事長のリーダーシップに期待する。
- 佐藤委員 A  
新型コロナウイルス感染症対策のための本部会議が開催され、適時に対応されている。
- 中沢委員 A
- 中島委員 A
- 吉沢委員 A  
理事長兼学長のリーダーシップのもと、組織的にまとまっている。

14	2 人事の適正化に関する目標を達成するための措置 No.36~37		2			2	100.0%	0.0%	A	【評価】	A 6
										A	

【委員意見】

- 伊勢委員 A
- 伊藤委員 A
- 佐藤委員 A
- 中沢委員 A
- 中島委員 A
- 吉沢委員 A

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	---	---	---	---	--------	------	-----

15

3 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置 No.38		1			1	100.0%	0.0%	A
-------------------------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---

【評価】  
A A 6

**【委員意見】**  
 ○伊勢委員 A  
 ○伊藤委員 A  
 ○佐藤委員 A  
 ○中沢委員 A  
 ○中島委員 A  
 庶務関係事務の効率化のためのシステムを構築した。また、委託可能な処理は外部委託している。  
 ○吉沢委員 A  
 多様で柔軟な働き方において、教職員の育児休暇、介護休暇の取得状況がどのようになったのかデジタル化されるとさらに評価できる。

**【特記事項に関する委員意見】**

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	---	---	---	---	--------	------	-----

第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	0	4	0	0	4	100.0%	0.0%	
-------------------------------	---	---	---	---	---	--------	------	--

16

1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置 No.39~40		2			2	100.0%	0.0%	A
--	--	---	--	--	---	--------	------	---

【評価】  
A A 6

【委員意見】  
伊勢委員 A  
伊藤委員 A  
佐藤委員 A  
中沢委員 A  
 募金も定期的にリフレッシュした方がいいかもしれないので、令和元年度に創設した「ネクストリーダーズ基金」の次の展開を検討してはいかがか？  
中島委員 A  
吉沢委員 A  
 「ネクストリーダーズ基金」など大学がいかに寄付金を集めることができるか、積極的な更なる取組みを期待する。

17

2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置 No.41		1			1	100.0%	0.0%	A
-------------------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---

【評価】  
A A 6

【委員意見】  
伊勢委員 A  
伊藤委員 A  
佐藤委員 A  
 経済社会のデジタル化を踏まえ、今後、業務費に係る取引の帳簿、証憑の電子化による一元管理が望まれる。  
中沢委員 A  
中島委員 A  
吉沢委員 A

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	---	---	---	---	--------	------	-----

18

3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置 No.42		1			1	100.0%	0.0%	A	【評価】 A A 6
------------------------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---	---------------

**【委員意見】**

- 伊勢委員 A
- 伊藤委員 A
- 佐藤委員 A
- 中沢委員 A
- 中島委員 A
- 吉沢委員 A

**【特記事項に関する委員意見】**

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置	0	3	0	0	3	100.0%	0.0%	

19

1 自己点検・評価の充実に係る目標を達成するための措置 No.43～44		2			2	100.0%	0.0%	A
--------------------------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---

【評価】  
A A 6

【委員意見】  
 ○伊勢委員 A  
 ○伊藤委員 A  
 ○佐藤委員 A  
 ○中沢委員 A  
 「内部質保証システムに基づく各PDCAサイクルについては、内部質保証システムチェックシートに基づきその進捗を確認する」とあるが、その結果(改善指示も含めて)はどのようにして学内に周知されるのか？宮城大学の内部質保証システム実施要綱には情報公開に関する記述が少ないように感じる。  
 ○中島委員 A  
 ○吉沢委員 A  
 大学全体として、自己点検・評価によって、全体の大学としての質保証は維持されている。今後は、分野別質保証という考えのもとに、自己点検を考えることも検討いただきたい。

20

2 情報公開の推進等に関する目標を達成するための措置 No.45		1			1	100.0%	0.0%	A
----------------------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---

【評価】  
A A 6

【委員意見】  
 ○伊勢委員 A  
 広報の成果としては評価を上げて良いようにも感じる。  
 ○伊藤委員 A  
 ○佐藤委員 A  
 ○中沢委員 A  
 大学案内やウェブサイトなどが「宮城大学広報ツールのトータルデザイン」として評価され、2021年度グッドデザイン賞を受賞したことは、もっと高く評価されてもいいように思う。  
 ○中島委員 A  
 ○吉沢委員 A

【特記事項に関する委員意見】



# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	---	---	---	---	--------	------	-----

第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置	0	4	0	0	4	100.0%	0.0%	
---------------------------------	---	---	---	---	---	--------	------	--

21	1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置 No.46		1			1	100.0%	0.0%	A	【評価】 A A 6
----	-------------------------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---	---------------

【委員意見】

- 伊勢委員 A
- 伊藤委員 A
- 佐藤委員 A
- 中沢委員 A
- 中島委員 A
- 吉沢委員 A

22	2 安全管理等に関する目標を達成するための措置 No.47～48		2			2	100.0%	0.0%	A	【評価】 A A 6
----	----------------------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---	---------------

【委員意見】

- 伊勢委員 A
- 伊藤委員 A
- 佐藤委員 A
- 中沢委員 A
- 中島委員 A
- 吉沢委員 A

ストレスチェックで高得点となった教職員への具体的な対応, 労働時間の管理などどのような状況になって, 教職員として働きやすい職場になっているかの評価について, わかる実績の書き方をお願いしたい。

# 令和3年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	---	---	---	---	--------	------	-----

23	3 人権の尊重に関する目標を達成するための措置 No.49		1		1	100.0%	0.0%	A	【評価】 A A 6

**【委員意見】**

- 伊勢委員 A
- 伊藤委員 A
- 佐藤委員 A
- 中沢委員 A
- 中島委員 A
- 吉沢委員 A

**【特記事項に関する委員意見】**

- 中沢委員  
ハラスメント案件はなかなか無くならないようだ。

合 計	4	43	2	0	49	95.9%	8.2%
-----	---	----	---	---	----	-------	------

**【委員意見】(全体評価)**

- 伊藤委員  
新理事長のリーダーシップに期待する。高度な実学を実践し、グローバルな視点で地域貢献する理念を着実に進めていただきたい。
- 中沢委員  
コロナに関する大学の対応は、学生に対して非常に手厚いと感じる。さらに、産学連携インターンシップや「宮城大学・JICA連携グローバル・プログラム」など、学生を積極的に動かそうとする企画は学生のためになる評価の高い事業である。
- 吉沢委員  
学群教育に関しては、非常によくやられていることは評価できる。大学院課程においては、もっと各研究科の特徴がわかるように、また将来構想も明確にした方がいいのではないかと考える。財政的には問題はない、時代の大学全体のDX化、働きやすい環境、DEI(Diversity ,Equity,Inclusion)に向けた積極的な取組みを期待する。